

(7ページからつづく)

病院事業

会計

主な質疑

問 入院患者数および外来患者数の減少原因は。
市民病院事務局長 平成

27年3月に内科医師1名が退職、4月にも当時副院長の内科医師が退職したため、入院患者数に大きく影響したこと、また新病院へのMRI機器移設に伴う検査業務の停止や、移転に伴う救急受け入れの停止、外来診療の休診など移転時期の診療制限が影響したものと考えている。

問 患者数の減少による減収額はどのくらいか。
市民病院事務局長 患者数の減少により、入院が

1億338万円の減収、外来は、1518万円の減収となった。

問 企業債について、公立尾陽病院時代の未償還残高がまだ多くあるが。
市民病院事務局長 合計で1億5361万3469円の未償還残高があるが、平成29年度をもって償還が完了する。

問 一般会計からの繰入金合計は約19億円。前年度から増加した理由は。
市民病院事務局長 新病院の開院に向けた移転費用や医療機器および備品の整備費用、新病院の施設管理費、旧病院の解体・設計費用が主な要因であるが、さらに補正予算において経営安定化に要する負担金として、平成27年度限りの繰入金があったため。

問 医業収益は、予算と比較し約7億6千万円の未達成であるが、今後の見通しは。
市民病院事務局長 新病院への移転による患者数の減少から収益目標も未達成となったが、平成28年3月に策定したあま市民病院改革プランに基づき、救急受け入れ体制の改善や地域包括ケア病棟の開設など、着実に経営改革に取り組んでいるところである。

採決結果
賛成多数により、原案のとおり認定。



一般会計補正予算

財政調整基金費	9億5963万4千円
後期高齢者医療特別会計繰出金	2143万2千円
予防接種事業費	879万3千円
保育所等における業務効率化 推進事業費補助金	300万円
施設管理費(児童クラブ費)	262万8千円など

平成28年度一般会計補正予算(第4号)は、歳入歳出それぞれ9億9766万円を追加し、総額を282億4910万4千円とするもので、全員賛成により原案のとおり可決されました。

主な質疑

問 保育所における業務効率化推進事業費補助金とはどのような事業か。
福祉部長 事業の内容は、

保育士の業務負担軽減を図るため、ICT化推進のための保育業務支援システム導入に必要な経費の一部を市内の私立保育園3園に対して補助する

採決結果
全員賛成により、原案のとおり可決。

ものである。
補助金の額は、1施設当たり100万円が上限となつているため、3園分で300万円を計上している。

